

## 2

## 最終処分場建設工事に係る調査結果

## 2-1

## 大気質

最終処分場工事区域風下側の敷地境界において、建設工事中の大気質（窒素酸化物、二酸化硫黄）について調査を実施しました。

その結果、表-2に示したとおり、環境基準の設定されている二酸化窒素、二酸化硫黄については、いずれも環境基準を下回る値でした。

また、二酸化窒素については中央公害対策審議会答申の短期曝露指針値（NO<sub>2</sub>の1時間値が0.1～0.2ppm以下）が示されていますが、これを下回る値でした。

表-2 建設工事中大気質調査結果

項 目		NO (ppm)	NO <sub>2</sub> (ppm)	NO <sub>x</sub> (ppm)	SO <sub>2</sub> (ppm)
環境基準	1時間値の 1日平均値	—	0.04～ 0.06以下	—	0.04以下
	1時間値	—	—	—	0.1以下
指針値	1時間値	—	0.1～ 0.2以下	—	—
平成23年 5月16日～17日	日平均値	0.006	0.011	0.017	0.009
	1時間値の最大値	0.023	0.019	0.039	0.016
平成23年 7月4日～5日	日平均値	0.002	0.008	0.010	0.005
	1時間値の最大値	0.006	0.016	0.022	0.009
平成23年 10月24日～25日	日平均値	0.016	0.010	0.026	0.005
	1時間値の最大値	0.044	0.015	0.056	0.012
平成24年 1月16日～17日	日平均値	0.007	0.015	0.020	0.002
	1時間値の最大値	0.041	0.024	0.056	0.004

※環境基準：「大気の汚染に係る環境基準について」（昭和48年環告25）

「二酸化窒素に係る環境基準の改定について」（昭和53年環告38）

指 針 値：「中央公害対策審議会答申の短期曝露指針値」（昭和53年3月）

本調査に伴う調査地点は環境基準の適用は受けませんが、最終処分場の建設工事に伴う騒音・振動の影響を把握するため、最終処分場工事区域周辺2地点で環境騒音・環境振動の調査を実施しました。

環境騒音の騒音レベル ( $L_{Aeq}$ ) は、表-3に示したとおりです。

春季・夏季の夜間でやや高い値がみられましたが、これはカエルの鳴き声の影響によるものでした。

また、評価書における工事中の予測では、本事後調査のNo.2付近での値を予測しているため、No.2の調査結果と比較しました。

その結果、建設工事時間中である昼間の1時間値の最大値は、春季は58dB、夏季は51dB、秋季及び冬季は54dBであり、いずれも予測結果(68dB)を下回る値でした。

環境振動は、春季のNo.1で30dB未満(測定機器の保証最低値30dB)～38dB、No.2で30dB未満～39dB、夏季のNo.1で30dB未満～36dB、No.2で30dB未満～40dB、秋季のNo.1で30dB未満～37dB、No.2で30dB未満～39dB、冬季のNo.1で30dB未満～37dB、No.2で30dB未満～43dBでした。

一方、最終処分場建設工事の着手に伴い、工事の実施が周辺に及ぼす影響を把握するため、最終処分場敷地境界において、建設騒音・建設振動の調査を実施しました。

調査の結果は、表-4に示したとおりであり、春季の建設騒音は50～67dB、建設振動は30～35dB、夏季の建設騒音は54～69dB、建設振動は30未満～37dB、秋季の建設騒音は51～64dB、建設振動は33～40dB、冬季の建設騒音は49～70dB、建設振動は35～41dBでした。

今回の調査結果を「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準(敷地境界:85dB)」及び「特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準(敷地境界:75dB)」と比較すると、騒音、振動のいずれの調査地点・調査時期もこの基準を満足する結果でした。

表-3 環境騒音調査結果

(単位: dB(A))

調査地点	調査時期 時間区分	春季	夏季	秋季	冬季
		No.1	昼間	56	46
	夜間	63	55	44	37
No.2	昼間	52	47	51	50
	夜間	53	53	39	33
	昼間の1時間値の最大値	58	51	54	54
	評価書予測結果	68			

※: 本事後調査のNo.2が、評価書の予測地点と類似しているため、No.2のみ比較した。

表－４ 建設工事中の騒音・振動調査結果

調査年月日	調査地点	建設騒音 (L <sub>5</sub> ) (dB(A))	建設振動 (L <sub>10</sub> ) (dB(Z))
平成 23 年 4 月 27 日	No. 1	55	32
	No. 3	67	30
	No. 4	50	35
平成 23 年 7 月 11 日	No. 1	54	37
	No. 3	65	30 未満
	No. 4	69	36
平成 23 年 10 月 18 日	No. 1	56	36
	No. 3	64	40
	No. 4	51	33
平成 24 年 1 月 19 日	No. 1	56	35
	No. 3	70	40
	No. 4	49	41
規制基準※		敷地境界：85	敷地境界：75

※：「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」

「特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準」

### 2-3 悪 臭

最終処分場敷地境界に予め設定した6地点（No.1～No.6）のうち、調査当日の風向を考慮した風下側の2地点を選定して調査を実施しました。

春季はNo.3、4、夏季はNo.2、3、秋季及び冬季はNo.4、5で実施しました。

その結果、各季とも全ての調査地点で特定悪臭物質は検出されませんでした。さらに、人の嗅覚により試験を行う臭気指数についても、同じく全ての調査地点で10未満でした。

### 2-4 河川水

最終処分場工事区域下流2地点において、河川水の水質調査を実施しました。

その結果、主な項目について昨年度の調査結果とともに表－5（1）に、各地点の主な項目の調査結果と、地点の位置関係を示した模式図を図－1に示しました。

また、同調査地点のさらに下流2地点（No.3、4）で実施した調査結果についても、今年度よりNo.1、2と併せて表－5（2）、図－1に示しました。

昨年度の調査結果と比べて、No.1のSS、T-P、No.2のBOD、SS、T-Pと、No.3のT-Pで昨年度をやや上回る値がみられましたが、他の項目については、各地点とも昨年度と同程度でした。表に示した項目以外の項目（健康項目等）については、昨年度の調査結果と同程度又は定量下限値未満でした。

なお、No.3（内山町地内）地点については、年4回（各季）調査で、春季（5月）、夏季（8月）、秋季（11月）、冬季（2月）の調査結果となります。

表-5（1） 主な項目の調査結果（No.1、2：4月～2月分）

	単位	No.1		No.2	
		平成23年度 事後調査	平成22年度 事後調査	平成23年度 事後調査	平成22年度 事後調査
水素イオン濃度 (pH)	—	7.5 (7.2～7.7)	7.3 (6.9～7.7)	7.7 (7.2～8.2)	7.7 (7.3～8.2)
生物化学的酸素 要求量(BOD)	mg-O/ℓ	0.9 (<0.5～1.3)	0.9 (<0.5～1.3)	3.9 (1.8～11)	2.4 (1.3～4.9)
化学的酸素要 求量(COD)	mg-O/ℓ	2.7 (1.8～3.5)	2.9 (1.9～3.6)	6.1 (3.1～10)	5.5 (3.9～10)
浮遊物質量 (SS)	mg/ℓ	5.0 (<1.0～17)	2.9 (<1.0～8.1)	5.1 (<1.0～18)	4.0 (<1.0～12)
全窒素 (T-N)	mg-N/ℓ	9.0 (5.6～13)	11 (6.8～13)	13 (7.2～16)	13 (11～16)
全燐 (T-P)	mg-P/ℓ	0.030 (0.008～0.095)	0.021 (0.013～0.031)	0.043 (0.013～0.10)	0.034 (0.017～0.056)

注) 表中の数字は「平均値（最小値～最大値）」を示す。

表-5（2） 主な項目の調査結果（No.3、4：4月～2月分）

	単位	No.3 (内山町地内)		No.4 (八王子町地内)	
		平成23年度 事後調査	平成22年度 事後調査	平成23年度 事後調査	平成22年度 事後調査
水素イオン濃度 (pH)	—	7.5 (7.3～7.6)	7.7 (7.3～8.2)	7.7 (7.4～8.3)	7.7 (7.4～8.2)
生物化学的酸素 要求量(BOD)	mg-O/ℓ	2.4 (1.2～4.8)	2.1 (1.5～2.7)	1.8 (0.9～2.8)	1.8 (1.2～2.9)
化学的酸素要 求量(COD)	mg-O/ℓ	5.9 (4.6～8.6)	6.5 (5.1～7.6)	4.9 (3.1～6.4)	4.8 (3.6～7.4)
浮遊物質量 (SS)	mg/ℓ	4.3 (2.8～6.0)	6.1 (2.1～15)	3.5 (2.7～4.9)	4.5 (2.1～9.6)
全窒素 (T-N)	mg-N/ℓ	9.4 (7.6～10)	9.4 (6.4～11)	6.6 (4.9～7.9)	6.9 (5.1～8.4)
全燐 (T-P)	mg-P/ℓ	0.086 (0.028～0.16)	0.076 (0.054～0.094)	0.055 (0.035～0.088)	0.053 (0.036～0.076)

注) 表中の数字は「平均値（最小値～最大値）」を示す。

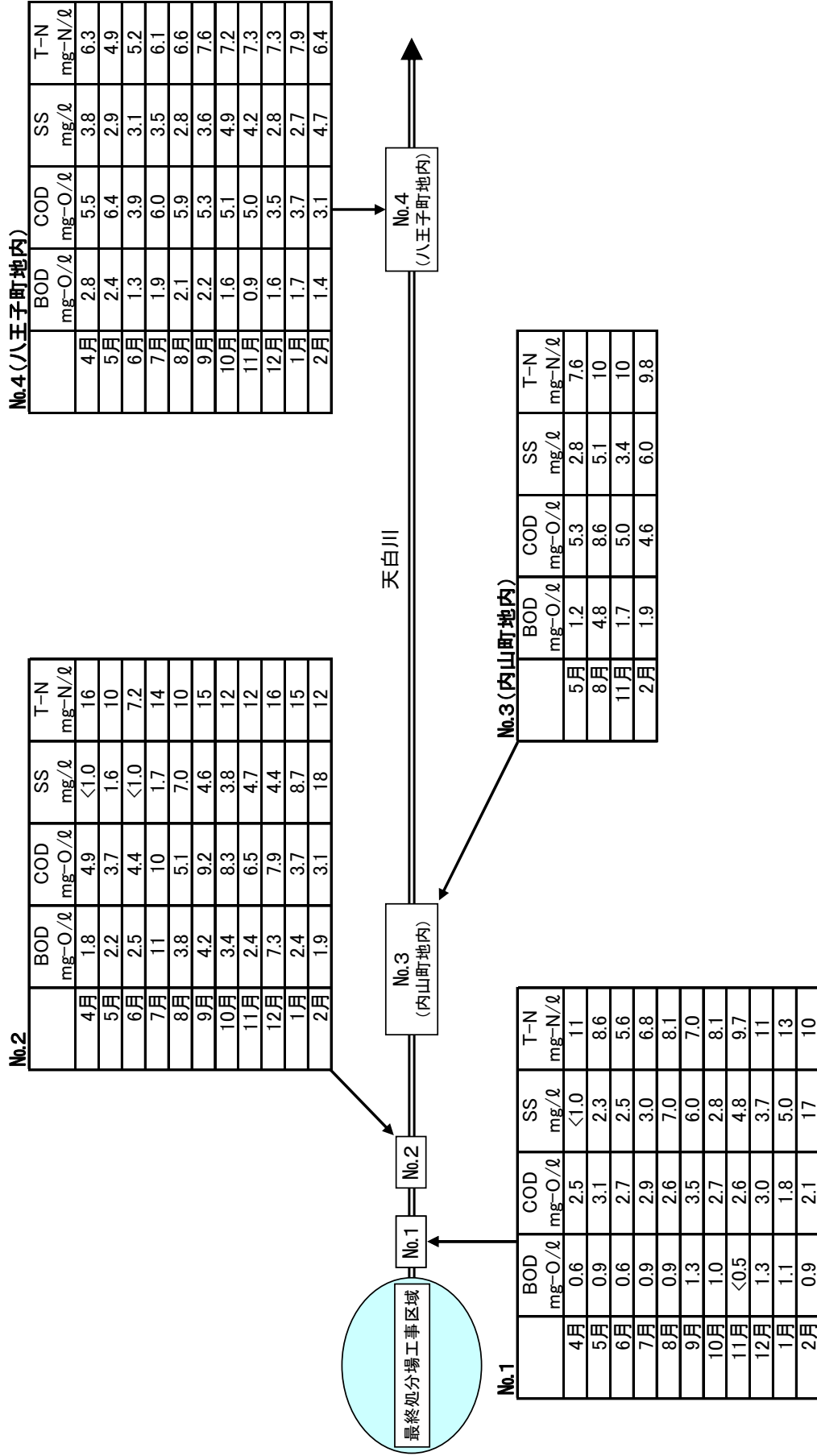


図-1 水質調査結果の地点模式図

また、環境ホルモンのうち、夏季にダイオキシン類の調査を、冬季にダイオキシン類を含む環境ホルモンの調査を実施しました。

ダイオキシン類は、表－6に示したとおり、夏季と冬季のNo.1、2では昨年度を下回る値でした。夏季のNo.4では昨年度をやや上回る値でしたが、環境基準は下回る値でした。

また、同結果は、表－7に示したとおり、三重県が平成22年度に実施した調査の平均値と比べてみると、No.1、2、4ともに県の平均値を下回る値でした。

ダイオキシン類以外の環境ホルモンは、表－8に示したとおり、ビスフェノールAが各地点で、フタル酸ジ-n-ブチルがNo.2で検出されましたが、その他の物質は検出下限値未満でした。

表－6 ダイオキシン類調査結果

地点	単位	事後調査			三重県の調査結果 (県内35地点)	
		平成23年度	事後調査			
No.1	pg-TEQ/l		平成23年度	夏季	0.15	0.37 (0.062~3.0)
No.2		0.12				
No.4		0.24				
No.1		冬季		0.14	0.088 (0.062~0.17)	
No.2				0.22		
No.4				0.084		
No.1	pg-TEQ/l	平成22年度	夏季	0.20		/
No.2				0.22		
No.4				0.19		
No.1			冬季	0.38		
No.2				0.61		
No.4				0.084		

注1) ダイオキシン類の水質の汚濁に係る環境基準は、「1 pg-TEQ/l 以下 (環境庁告示第68号、平成11年12月27日)」です。水質の汚濁に係る環境基準は河川水等の公共用水域及び地下水に適用されます。

注2) 三重県の調査結果は、「平成22年度のダイオキシン類環境調査等結果 (環境森林部地球温暖化対策室、平成23年9月7日)」で、値は夏季・冬季の「平均値 (最小値~最大値)」です。

表－7 ダイオキシン類調査結果 (年平均値)

(単位: pg-TEQ/l)

地点	平成23年度事後調査	三重県の調査結果 (35地点の年平均値)
No.1	0.15	0.19 (0.063~0.90)
No.2	0.17	
No.4	0.16	

注) 三重県の調査結果は、「平成22年度のダイオキシン類環境調査等結果 (環境森林部地球温暖化対策室、平成23年9月7日)」で、値は年間の「平均値 (地点別平均値の最小値~最大値)」です。

表－8 環境ホルモン調査結果（ダイオキシン類以外の検出された物質のみ）

物質名	単位	No. 1		No. 2		No. 4	
		平成 23 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 22 年度
ビスフェノールA	μg/l	0.16	0.05	0.09	0.09	0.12	0.17
フタル酸ジ-n-ブチル	μg/l	<0.5	<0.5	0.6	<0.5	<0.5	<0.5

2-5	地下水
-----	-----

最終処分場工事区域内の3地点において、地下水の水質調査を実施しました。

なお、昨年度までの調査地点は最終処分場建設工事により井戸を撤去したため、今年度から新たに別の場所に設置した井戸において、調査を継続しております。

その結果について、検出された項目のみを抜粋して表－9に示しました。

表－9（1） 調査結果（No.A：検出された項目のみ抜粋）

項目	単位	4月27日	7月7日	10月4日	1月5日
外 観	—	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明
p H	—	6.0	5.8	5.9	5.7
BOD	mg-O/l	2.0	0.6	0.6	<0.5
COD (Mn)	mg-O/l	1.3	<0.5	0.7	<0.5
浮遊物質 (SS)	mg/l	1.6	1.6	<1.0	<1.0
垂 鉛	mg/l	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
溶解性マンガン	mg/l	0.06	0.04	0.03	0.02
全窒素	mg-N/l	11	12	13	14
全 磷	mg-P/l	0.11	0.099	0.060	0.052
硬 度	mg/l	79	88	93	79
電気伝導率	mS/m	19	20	21	25
硫酸イオン	mg/l	20	21	22	21
大腸菌群数 (MPN)	MPN/100ml	<2	17	<2	2

表-9 (2) 調査結果 (No.B : 検出された項目のみ抜粋)

項目	単位	4月27日	7月7日	10月4日	1月5日
外観	—	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明
pH	—	6.2	6.0	5.9	5.8
BOD	mg-O/l	0.5	<0.5	0.6	<0.5
COD (Mn)	mg-O/l	<0.5	<0.5	<0.5	0.6
浮遊物質 (SS)	mg/l	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0
亜鉛	mg/l	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
溶解性マンガン	mg/l	0.03	0.02	0.02	0.01
全窒素	mg-N/l	5.8	6.0	6.4	7.3
全リン	mg-P/l	0.005	<0.003	0.004	<0.003
硬度	mg/l	44	59	46	53
電気伝導率	mS/m	24	24	25	29
硫酸イオン	mg/l	46	46	49	45
大腸菌群数 (MPN)	MPN/100ml	<2	<2	8	<2

表-9 (3) 調査結果 (No.C : 検出された項目のみ抜粋)

項目	単位	4月27日	7月7日	10月4日	1月5日
外観	—	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明
pH	—	6.2	6.0	6.0	6.0
BOD	mg-O/l	1.1	<0.5	0.6	<0.5
COD (Mn)	mg-O/l	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
浮遊物質 (SS)	mg/l	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0
亜鉛	mg/l	<0.01	0.02	<0.01	<0.01
溶解性マンガン	mg/l	0.01	<0.01	<0.01	<0.01
全窒素	mg-N/l	5.9	5.3	4.8	5.7
全リン	mg-P/l	0.005	0.003	<0.003	0.004
硬度	mg/l	82	96	82	66
電気伝導率	mS/m	43	40	39	36
硫酸イオン	mg/l	81	92	99	81
大腸菌群数 (MPN)	MPN/100ml	<2	5	5	<2

また、冬季にはダイオキシン類を含む環境ホルモンの調査を実施しました。

ダイオキシン類の調査結果は、表-10 に示したとおり、三重県が平成 22 年度に実施した調査の平均値と比べてみると、全地点とも県の平均値を下回る値でした。

その他の環境ホルモンでは、全て検出下限値未満でした。

表-10 ダイオキシン類調査結果

物質名	単位	平成 23 年度事後調査			三重県の調査結果 (県内 5 地点)
		No. A	No. B	No. C	
ダイオキシン類	pg-TEQ/l	0.041	0.042	0.041	0.12 (0.062~0.36)

注 1) ダイオキシン類の水質の汚濁に係る環境基準は、「1 pg-TEQ/l 以下 (環境庁告示第 68 号、平成 11 年 12 月 27 日)」です。水質の汚濁に係る環境基準は河川水等の公用水域及び地下水に適用されます。

注 2) 三重県の調査結果は、「平成 22 年度のダイオキシン類環境調査等結果 (環境森林部地球温暖化対策室、平成 23 年 9 月 7 日)」で、値は 5 地点の「平均値 (最小値~最大値)」です。

最終処分場建設工事の着手に伴い、工事の実施による濁水が周辺に及ぼす影響を把握するため、最終処分場工事区域内に設置した濁水処理設備出口において、濁水の調査を実施しました。

その結果は表-11 に示したとおり、評価書の予測結果を下回る値であり、農業用水基準も下回る値でした。

なお、当濁水処理施設は、降雨を問わず常時濁水処理を行い、概ね一定水量の処理水を放流していることから、各月1回の調査としていますが、豪雨時の状況についても把握するため、別途、豪雨時の調査を実施し、その結果を表-12 に示しました。

また、調査日を含む5日間の降雨状況を表-13 に示しました。

結果、当該処理設備については、豪雨時においても上記の処理水と同程度の水質で放流しております。

表-11 濁水調査結果

(単位：mg/l)

調査年月日	浮遊物質質量 (SS)	評価書予測結果*	農業用水基準
平成 23 年 4 月 27 日	3.0	25~27	100 以下
平成 23 年 5 月 25 日	5.1		
平成 23 年 6 月 29 日	16		
平成 23 年 7 月 27 日	6.9		
平成 23 年 8 月 31 日	7.0		
平成 23 年 9 月 28 日	13		
平成 23 年 10 月 26 日	1.0		
平成 23 年 11 月 30 日	3.4		
平成 23 年 12 月 21 日	12		
平成 24 年 1 月 25 日	8.5		
平成 24 年 2 月 29 日	19		

※：評価書の予測結果は、日降雨量 40mm で予測した結果を用いた。

表-12 濁水調査結果

(単位：mg/ℓ)

調査年月日	浮遊物質 (SS)	評価書予測結果※	農業用水基準
平成 23 年 7 月 20 日	2.3	25~27	100 以下
平成 23 年 9 月 6 日	4.3		

※：評価書の予測結果は、日降雨量 40mm で予測した結果を用いた。

表-13 降雨の状況

(単位：mm/日)

調査年月日	調査当日	調査前日	調査 2 日前	調査 3 日前	調査 4 日前
平成 23 年 7 月 20 日	20.5	64.0	0.5	0.0	0.0
平成 23 年 9 月 6 日	0.0	8.5	224.0	4.0	21.0

※：降雨量データは「気象庁ホームページ (電子閲覧室)」の「四日市特別地域気象観測所」による。

2-7

玄米・水田土壌

最終処分場工事区域周辺 1 地点において、玄米の調査 (9 月)、水田土壌調査 (11 月) を実施しました。

玄米はダイオキシン類及びカドミウムの調査を実施しました。

ダイオキシン類については、表-14 に示したとおり 0.00015pg-TEQ/g でした。

カドミウムについては、定量下限値 (0.04mg/kg) 未満でした。

水田土壌調査では、銅及び砒素の調査を実施しましたが、銅については、6 mg/kg、砒素は 0.4mg/kg でした。

表-14 玄米中のダイオキシン類調査結果

(単位：pg-TEQ/g-wet)

	内山町地内
平成 23 年度事後調査	0.00015
平成 22 年度事後調査	0.000059

特筆すべき動物の調査はいずれも最終処分場工事区域内及びその周辺で実施し、結果は表-15に示したとおりです。

表-15(1) 特筆すべき動物の調査対象種、調査時期及び調査結果

分類	種名	調査時期	調査結果
鳥類	チュウサギ	平成23年6月13日	確認できませんでした
	オオタカ ハイタカ	平成23年4月26日 平成24年1月27日 平成24年2月24日	1月調査時に、最終処分場工事区域の北西側で、カラスに追尾されているオオタカを確認しました。そのまま追尾されながら北西方向へ飛去しました 同じく1月調査時に最終処分場工事区域の東側上空で、カラスに追尾されているハイタカを確認しました。そのまま追尾されながら北方向へ飛去しました 2月調査時に、最終処分場工事区域の東側上空で、カラスに追尾されているハイタカを確認しました。そのまま追尾されながら南方向へ飛去しました
	フクロウ	平成23年4月28日 平成24年1月27日 平成24年2月27日	確認できませんでした
	サンショウクイ	平成23年6月13日	確認できませんでした
	サシバ		確認できませんでした
	コチドリ		確認できませんでした
	アオバズク		確認できませんでした
	コマドリ		確認できませんでした
	キビタキ		確認できませんでした
	タゲリ	平成23年12月28日	確認できませんでした
両生類	アカハライモリ		確認できませんでした
爬虫類	ニホンイシガメ	平成23年7月28日	5月17日の魚類調査時及び8月2日の水生生物調査時に各1ヶ所で生息を確認しました
昆虫類	ムカシヤンマ	平成23年7月28日	確認できませんでした
	オオクワガタ		確認できませんでした
	ミカドガガンボ		確認できませんでした
	ミズアブ		確認できませんでした
	オオイシアブ		確認できませんでした
	アオメアブ		確認できませんでした

表-15 (2) 特筆すべき動物の調査対象種、調査時期及び調査結果

分類	種名	調査時期	調査結果
クモ類	コガネグモ	平成 23 年 7 月 28 日	確認できませんでした
	カワベコモリグモ		確認できませんでした
	アシナガカニグモ		確認できませんでした
陸産貝類	ヒラベッコウガイ	平成 23 年 7 月 28 日	確認できませんでした
	ヒメビロウドマイマイ		確認できませんでした

2-9	水生生物
-----	------

2-9-1 特筆すべき水生生物

特筆すべき水生生物の調査はいずれも最終処分場工事区域内及びその周辺で実施し、結果は表-16 に示したとおりです。

表-16 特筆すべき水生生物の調査対象種、調査時期及び調査結果

種名	調査時期	調査結果
ヒラマキミズマイマイ	平成 23 年 8 月 2 日	確認できませんでした
ヒラマキガイモドキ		確認できませんでした
ナガオカモノアラガイ		2ヶ所で生息を確認しました
マシジミ		調査地点全地点（7ヶ所）で生息を確認しました
ドブシジミ		4ヶ所で生息を確認しました
コオイムシ		確認できませんでした

2-9-2 水生生物（淡水魚類）

最終処分場工事区域内を流れる天白川（P. 1、2 の調査地点）において淡水魚類調査を平成 23 年 5 月 17 日（春季）、8 月 2 日（夏季）、11 月 1 日（秋季）、平成 24 年 2 月 10 日（冬季）に実施し、調査の結果を表-17 に示しました。

また、同調査地点のさらに下流 1 地点（P. 3）で実施した調査結果についても、今年度より P. 1、P. 2 と併せて同表に示しました。

調査の結果、昨年度（表-18 参照）の調査結果と比較して、P. 1 ではカゴ網やセルビンでの捕獲は昨年度よりは多い状況でしたが、P. 2、P. 3 については、捕獲数・種数は少ない状況に変化はみられませんでした。タモ網での調査については各地点とも昨年度と比較して確認種数に大きな変化はみられませんでした。

今回の調査結果について、地点間での比較では、P. 1、P. 2 と比べると P. 3 では確認種数が比較的多い状況でした。

表-17 (1) 淡水魚類調査結果 (平成 23 年度)

調査方法	種 名	春季 (H23. 5. 17)			夏季 (H23. 8. 2)			
		調査地点						
		P. 1	P. 2	P. 3	P. 1	P. 2	P. 3	
カゴ網	オイカワ	14	捕獲なし				1	捕獲なし
	カワムツ	12				7		
	カワヨシノボリ	1						
	種 数	3				1	1	
	個体数	27				7	1	
セルビン	カワムツ	捕獲なし	4	捕獲なし	捕獲なし	2	捕獲なし	
	種 数		1			1		
	個体数		4			2		
タモ網	オイカワ	○	○	○	○	○	○	
	カワムツ		○	○	○	○	○	
	タモロコ						○	
	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○	
	種 数	2	3	3	3	3	4	

注) タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした。

表-17 (2) 淡水魚類調査結果 (平成 23 年度)

調査方法	種 名	秋季 (H23. 11. 1)			冬季 (H24. 2. 10)		
		調査地点					
		P. 1	P. 2	P. 3	P. 1	P. 2	P. 3
カゴ網	オイカワ	2	4	捕獲なし	捕獲なし		1
	タモロコ		1				1
	種 数	1	2				1
	個体数	2	5				1
セルビン	オイカワ	2	3	捕獲なし	捕獲なし		22
	種 数	1	1				1
	個体数	2	3				1
タモ網	オイカワ	○	○	○			○
	カワムツ						○
	タモロコ			○			○
	モツゴ			○			
	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○
	ドジョウ	○					
	種 数	3	2	4	1	1	4

注) タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした。

表-18 (1) 淡水魚類調査結果 (参考:平成 22 年度)

調査方法	種 名	春季(H22. 5. 11)			夏季(H22. 8. 3)		
		調査地点					
		P. 1	P. 2	P. 3	P. 1	P. 2	P. 3
カゴ網	カワムツ	捕獲なし			捕獲なし	2	捕獲なし
	種 数					1	
	個体数					2	
セルビン	カワヨシノボリ	捕獲なし			捕獲なし		1
	種 数						1
	個体数						1
タモ網	オイカワ					○	○
	カワムツ	○	○	○	○		
	タモロコ		○	○	○		
	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○
	コイ						○
	種 数	2	3	3	3	2	3

注) タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした。

表-18 (2) 淡水魚類調査結果 (参考:平成 22 年度)

調査方法	種 名	秋季(H22. 11. 2)			冬季 (H23. 2. 1)		
		調査地点					
		P. 1	P. 2	P. 3	P. 1	P. 2	P. 3
カゴ網	カワムツ	捕獲なし	2	捕獲なし	1	捕獲なし	捕獲なし
	種 数		1		1		
	個体数		2		1		
セルビン	種 数	捕獲なし			捕獲なし		
	個体数	捕獲なし			捕獲なし		
タモ網	オイカワ	○	○	○		○	
	カワムツ	○	○	○	○	○	○
	モツゴ			○			
	ドジョウ				○	○	
	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○
	種 数	3	3	4	3	4	2

注) タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした。